

—若手技術者のコーナー—

ヤンゴン市への技術協力について



1. はじめに

私は福岡市役所に平成22年に入庁し、4月で11年目を迎えた。道路下水道局に配属され、これまで管理、建設、計画部署の業務を担当してきた。本文では、これまでの経験の中でも印象に残っている、昨年度、福岡市がヤンゴン市（ミャンマー）で行う浸水対策の技術協力のプロジェクトに参加し、出張したときのことについて述べたい。

2. ヤンゴン市への技術協力について

今回のプロジェクトは、JICA草の根技術協力事業として行うものである。

浸水対策として必要な施設の設計や監督、下水道施設の維持管理、水路のゴミ投棄に関する市民啓発について、ヤンゴン市開発委員会（YCDC）の職員へワークショップなどを通して学んでもらい、最終的には、YCDCが排水機能・状況の改善策について適切に実施できるようになることを目的としている。

今回、私が携わった出張では、プロジェクトの概要の説明や浸水対策事業の設計、監督、市民啓発について、両市の事例の紹介や、現地の工事の様子の視察を行った。

3. 現地視察・市民啓発について

ヤンゴン市の現地を巡ったところ、大きなショッピングモールがあったり、市民もみなスマートフォンを持ち、かなり都市化されている印象を受けた。しかし、YCDCが発注している水路工事を視察したところ、作業員がTシャツ、短パンで、ヘルメットを被らず作業をしているなど日本では考えられないような環境で工事を行っていた。また、水路はレンガ積みをコンクリートで巻いたものでできており、既存の水路も壁が一部崩落している箇所も見られた。一方で、日本も含めた海外の協力で行っている事業は、ヘルメットの着用をきちんとしたり、工事も近代設備を用いているようであった。海外資本で現地のインフラを整備することは、市民に喜ばれ、大変意義のあるものであるが、現地の技術レベルを上げ、自立した土木工事ができるようにする今回のプロジェクトも、とても重要なことであると感じた。

また、ヤンゴン市では水路へのごみの投棄が問題となっており、YCDCとしては市民啓発により市民の意識を変えたいとのことであった。今回は今後どのような市民啓発が考えられるか、YCDCの職員と自由に意見を出し合うワークショップを行った。そこでは、SNS（ミャンマーではfacebookが盛ん）を通じての啓発や、現地で有名な俳優にメッセージを出してもらうなど活発な意見交換ができた。

今後も福岡市としては、今回の視察や意見交換を基にYCDCが主体的に浸水対策事業の活動ができるよう、技術協力を進めていく予定である。



水路築造の様子



水路のごみ堆積



意見交換の様子

4. おわりに

今回技術協力を行ったヤンゴン市開発委員会（YCDC）の職員は、みな勤勉でこちらの技術を学ぼうという意欲が感じられ、また、多くの職員が英語を話せており、職員のレベルの高さとこの技術協力への期待度の高さを感じた。

近年、自治体による海外への技術協力が盛んであると聞く。ますます広がるグローバル社会に対応するためにも、技術の研鑽はもちろんのこと英語やプレゼン能力の向上にも務めていきたいと感じた。

福岡市 道路下水道局 計画調整課 長谷川 智明